



# ISAP 2021

持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

# IGES

公益財団法人  
地球環境戦略研究機関

## パリ協定第6条の交渉結果と 今後の炭素市場の展望

# 2021

気候変動とエネルギー領域  
副ディレクター 高橋健太郎

# 本日の流れ

1 COP26期間中のスケジュールと決定概要

2 パリ協定第6条2項で決定したこと

3 パリ協定第6条4項で決定したこと

4 交渉外での動きと今後の展望

# 本日の流れ

1 COP26期間中のスケジュールと決定概要

2 パリ協定第6条2項で決定したこと

3 パリ協定第6条4項で決定したこと

4 交渉外での動きと今後の展望

# 現地での様子





# パリ協定第6条ルールブック採択！



国際的な炭素クレジットの取引に関する基本的ルールを決定

## 6条2項

国際的に移転したクレジットの排出削減目標等への活用のためのガイドンスを採択！

## 6条4項

新たな国連のクレジット制度のルール、モダリティ、実施手続きを採択！

## 6条8項

非市場アプローチの作業計画を採択！



6条交渉官の集合写真



(左より経産省 長田室長、環境省 小坪国際企画官、外務省水野交渉官)



Article6 Heroメダル



# COP26期間中のスケジュール

1週目 (10/31-11/6)

1週目で4回テキスト改訂

開会  
プレナリー  
(10/31)

SBSTA (科学上及び技術上の助言に関する補助機関会合)  
(11月6日までに専門家ルールや技術的な論点について議論)

公式スケジュールでは、**合計12回の会合を実施。**

多くの国が  
6条のルールブック  
採択が必要と言及



11/1 Ver1

コンタクトグループ  
会合  
(交渉全体概要を話す)



6条交渉官会合  
(専門家レベル)



主席交渉官会合  
(審議官級)



コンタクトグループ  
会合  
(技術レベル議論終了)



11/5 Ver2



11/6 Ver3-4

2週目 (11/8-11/12)

2週目も4回テキスト改訂

COP26議長  
非公式  
ストックテイク  
プレナリー  
(11/8)

閣僚級コンサルテーション

【政治レベルの論点】**適応への貢献、CDMの移管、6.4項の相当調整**

第2週目に16か国が  
適応基金への拠出を発表  
(日本円で合計約400億円程度)



11/10 Ver1



11/11 Ver2



11/12 Ver3



11/13 Ver4

11/13閉会  
(1日延長)

略語 SBSTA (Subsidiary Body for Scientific and Technological Advice)、SBI (Subsidiary Body for Implementation)、CDM (Clean Development Mechanism)

# パリ協定第6条ルールブック概要

▶ 今回、大枠のルールが決定したが、解釈が関係者で異なる可能性有。

## 6条2項

- ITMOs（クレジット）の定義
- 二重計上防止ルール（相当調整）の決定
- クレジットの報告・レビュー・管理登録簿の規定
- **適応への貢献（自主的な貢献）**

※紫色太字は政治レベルでの合意点

## 6条4項

- 監督委員会の設立と基本的なルールの採択  
（参加要件、制度のサイクル、方法論原則、適応への貢献（SOP）とクレジット取消（OMGE）の決定等）
- **二重計上防止ルール（相当調整）の決定**
- CDMプロジェクトと**CDMクレジットの移管の決定**

## 6条8項

- グラスゴー委員会の設立
- 非市場アプローチの原則と今後の活動を決定

# 本日の流れ

1 COP26期間中のスケジュールと決定概要

2 パリ協定第6条2項で決定したこと

3 パリ協定第6条4項で決定したこと

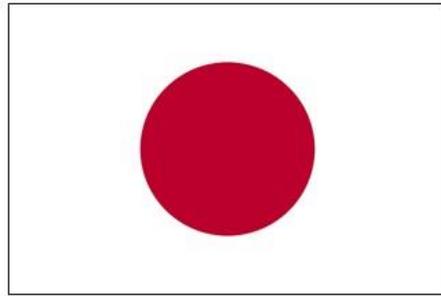
4 交渉外での動きと今後の展望

# パリ協定第6条2項って？

獲得したクレジット（ITMOs）をNDCの目標達成等に活用できるようにする仕組み。

略称：NDC（Nationally Determined Contribution：自国が決定する貢献）、JCM（Joint Crediting Mechanism：二国間クレジット制度）  
ITMOs（Internationally Transferred Mitigation Outcomes：国際的に移転された緩和成果）

例：二国間クレジット制度（JCM）



削減目標に活用  
（企業にもクレジット配分）

脱炭素技術の導入・資金支援



相当調整（二重計上防止）を適用

ITMOs  
（JCMクレジット）



17カ国が参加

JCM  
パートナー国

プロジェクトの実施を通じてCO<sub>2</sub>削減  
（2030年まで累計で1,920万トン）  
（現時点）

その他の国の二国間協力の動き



スイス Klikを通じた二国間協力

- ◆ 6か国（ペルー、ガーナ、セネガル、ジョージア、バヌアツ、ドミニカ）と署名
- ◆ クレジットの二重計上・二重請求を防止



インド太平洋オフセット  
スキーム

- ◆ フィジー・パプアニューギニアと署名
- ◆ 10年間で総投資額は1億400万ドル
- ◆ 信頼性の高いクレジットを目指す



海外クレジットの調達  
（強化されたNDCで変更）

16%



35%  
（3,350万トン）

# ITMOsの対象は？相当調整の適用範囲は？



2016 運転開始

排出削減量  
≠ ITMOs

2021

ITMOsを排出削減に活用できるのは2021年以降

排出削減量 = ITMOs (イトモス)

2030

- 1 NDCに使用
- 2 国際的な緩和目的に使用 (CORSI A)
- 3 その他の目的 (自主取消) に使用

略語：CORSI A (Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation：国際民間航空のためのカーボン・オフセットおよび削減スキーム)

参加国の承認体制  
の整備が必要

クレジット

ITMOs

参加国が承認 (相当調整あり)

参加国の承認なし (相当調整なし)

国際移転しないクレジット



NDC使用目的で  
国際移転するクレジット

CORSI A



CORSI Aの使用目的で国際移転する  
自主的クレジット

NDCやCORSI A目的で  
国際移転する  
第6条4項のクレジット  
(A6.4 ERSs)

自主的取消目的で  
国際移転するクレジット

プロジェクト実施国  
の企業の目標達成  
(自主目標等) に活用  
されるクレジット

投資企業がクレジット  
を獲得せず、資金貢献  
による削減を主張する  
ために活用

# 6条2項の今後の予定



6条2項で目標達成に活用し、報告するクレジットは環境十全性の確保が必要。先住民族や人権保護の重要性も強調。

## 2022年COP27（エジプト）で詳細を決定

### 相当調整の方法

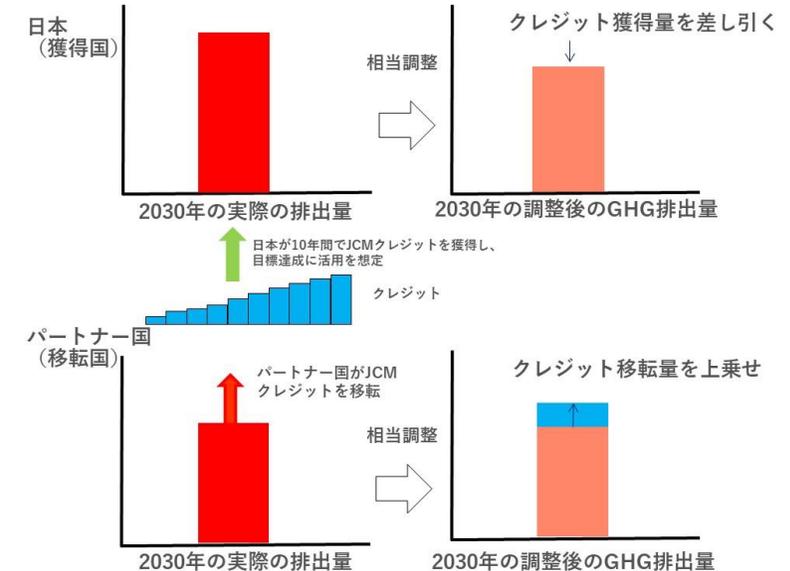
- トラジェクトリー法
- 平均法
- GHGを単位としない取引の相当調整

今後、セーフガード及び制限も検討

### 報告・レビュー

- 初期報告（先住民族や人権への対応が追加）
- 年次報告
- 定期報告（先住民族や人権への対応が追加）
- 6条専門家が机上審査と集中審査を実施

### 相当調整のイメージ



# 本日の流れ

1 COP26期間中のスケジュールと決定概要

2 パリ協定第6条2項で決定したこと

3 **パリ協定第6条4項で決定したこと**

4 交渉外での動きと今後の展望

# パリ協定第6条4項って？

国連管理型のCDM（クリーン開発メカニズム）の後継メカニズム。

## CDMメカニズム



略：CDM（Clean Development Mechanism）



移管

## 新しいクレジットメカニズム

6条4項

COP26は、**6条4項監督委員会**が速やかに運用を開始できるように合意することが目標

登録CDMプロジェクト

7,849

※PoA除く

発行済クレジット

約21億トン

※PoA除く



# CDMの移管に関する決定

## CDM理事会

登録CDMプロジェクト

# 7,849

のうちクレジット期間が有効なプロジェクトは2,834件



発行済みクレジット

# 約21億トン

クレジット発行のポテンシャル量\*

約27億トン (2008-2012)

約7億 トン (2013-2020)

\*UNFCCC事務局による推計値

## 6条4項 監督委員会

相当調整必要

移管

以下の条件を満たせば6条4項の活動として登録可。

- 2023年12月31日までにプロジェクト参加者が移管要請すること
- 2025年12月31日までにCDMホスト国から移管承認を得ること
- 今後、6条4項のルールや手続きに従うこと。また移管後、CDMとして登録解除。

移管

2013年以降に登録したプロジェクトで2020年以前の削減量 (植林・再植林は除く)

相当調整とSOP不要

供給予測

# 約3.4億トン

\*IGES・三菱UFJリサーチ&コンサルティング  
ドイツ研究機関による推計値

## 2008 京都議定書第1約束期間・第2約束期間



アンティグア・バーブーダ (AOSIS)

“ジャンククレジット”の移管は認めないと発言

\*AOSIS (Alliance of Small Island States (小島嶼国連合))



コスタリカ

“サンホセ原則”に従って、環境十全性を目指す発言

## 2021 パリ協定の実施

これからプロジェクトを形成・参加したい場合

- CDMプロジェクトとして申請不可
- 6条4項で新規プロジェクトを形成

(今回決定したルール及び今後の詳細ルールに従う)



# 6条4項の今後の予定

▶ 詳細ルール作りや整備に2-3年程度かかる見込み。

## 監督委員会（12名）

国連5地域からそれぞれ2名

後発開発途上国から1名

小島嶼国から1名

2022年に2回開催予定

- 削減量計算のための方法論の開発と承認
- 6.4項の活動の登録、クレジット期間の更新、クレジットの発行
- 人権や先住民族の権利の考慮、環境セーフガードや、持続可能な開発への配慮のためのツールの開発
- 6.4項に関するウェブサイトの開発
- その他、メカニズムを実施するための支援

今後、詳細を検討

## 6条4項メカニズムの活動サイクルの規定

A. 活動の要件

D. バリデーション

G. 検証・認証

J. 初回移転

B. 方法論（保守性）

E. 活動の登録

H. 発行

K. 自主的な取消

C. 活動の登録・承認

F. モニタリング

I. クレジット期間の更新

L. 苦情処理

## 適応への貢献 (SOP) 世界全体の排出削減 (OMGE)

(SOP) 適応へ支援するために、クレジット発行時に5%を徴収

(OMGE) 世界全体の削減のためにクレジット発行時に2%を取消

- 取消したクレジットは、いかなる目的に移転・使用不可
- 残りの発行クレジットに対して相当調整を適用
- 相当調整を適用したクレジットをOMGEのために自主的に取消可能

略語

SOP (Share of Proceeds)

OMGE (Overall Mitigation in Global Emission)

# 本日の流れ

1 COP26期間中のスケジュールと決定概要

2 パリ協定第6条2項で決定したこと

3 パリ協定第6条4項で決定したこと

4 交渉外での動きと今後の展望

# 各方面の反応 (1)

## 会場内で聞いた言葉

Junk Credit

Bang, Bang, Bang of Greenwashing

Zombie Credit

Your Task Force is SCAM (詐欺)

No Carbon Market

Back to the Future

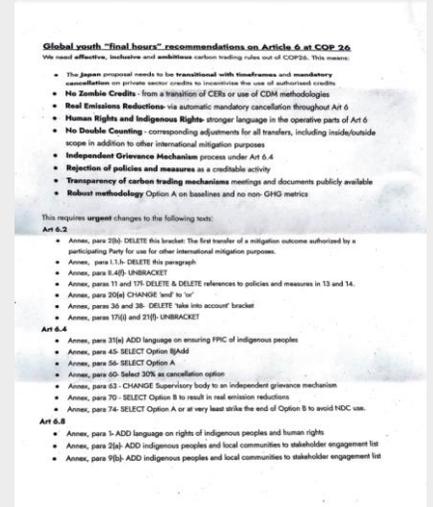


グレタさん他、SNSでグリーンウォッシングへの懸念やオフセットは排出のフリーパスであるとツイート

出典：グレタさんツイート  
<https://twitter.com/GretaThunberg/status/1455904676227002375>

COP26参加者に関する記事  
 (化石燃料業界の参加企業を特定)

出典：Global Witness  
<https://www.globalwitness.org/en/press-releases/hundreds-fossil-fuel-lobbyists-flooding-cop26-climate-talks/>



Youthによる6条への意見  
 (会場内で配布)

- ▶ 石炭・化石燃料への風向きが厳しくなり、クレジットへも波及。
- ▶ クレジットを大量に活用する業界にも厳しい視線。
- ▶ クレジットの活用が1.5°Cにどのように貢献するか説明要。



## 各方面の反応 (2)

クレジットの活用はカーボンニュートラルやネット・ゼロに向けたオプションの一つ。  
今後、金融機関・投資家がどのように評価するかがポイント。

### **VCMI** 自主的炭素市場との関連について、今後、詳細を決定。

- ・ 相当調整の適用可否
- ・ 先住民族、地域コミュニティ等の包括的な参加
- ・ 2020年以前のクレジットの使用

※略語 VCMI (Voluntary Carbon Markets Integrity Initiative)  
出典：<https://vcmintegrity.org/3056-2/>

### **Gold Standard** 国際移転するクレジットは相当調整を適用

- ・ VCMIはCCQIとの連携が必要
- ・ BMW等、相当調整したクレジットの需要有
- ・ 方法論の見直しを実施

※略語 CCQI (Carbon Credit Quality Initiative)  
出典：<https://www.goldstandard.org/blog-item/post-cop26-%E2%80%93-reflections-article-6-outcomes>

### **IETA** 二重計上を防止し、環境十全性を確保を支持。

- ・ 2020年以前のユニットの限定的な繰越しによって、新しいメカニズムが稼働するまで、開発途上国への資金の流れを維持。

※略語 IETA (International Emission Trading Association)  
出典：<https://www.ieta.org/page-19169/12124997>

### **VERRA**

第6条のルール(相当調整)は、自主的炭素市場に対して義務ではない。

出典：<https://verra.org/moving-forward-together-verras-reflections-on-the-cop26-outcome-in-glasgow/>

▶ 相当調整を導入予定の二国間や先行しているクレジット制度への関心の高まり。

▶ 解釈が微妙に異なっており、相当調整を選択するかは各国・スタンダードで判断か。

▶ プロジェクト実施国で、相当調整や承認のためのキャパシティビルディングの実施が必要。

# 今後の炭素市場の行方

今後はこんなニーズ？

- |   |   |  |
|---|---|--|
| 1 | コンプライアンス（NDCやCORSIA）市場で使用されるクレジット（相当調整つき） | 主に二国間や6条4項クレジット  |
| 2 | 自主的目的使用のためのクレジット（相当調整つき）                  | Gold Standard等のクレジット   |
| 3 | 相当調整の対象にならないクレジット                         | 国際移転はせず、プロジェクト実施国の企業が活用するクレジット   |
| 4 | 資金貢献と削減量を主張するためのクレジット（投資企業はクレジットを獲得しない）   | 森林保全への投資  |

大枠のガイダンスが決定したことで、環境十全性の確保（二重計上の防止、セーフガード等）がより重要に。

- ▶ 相当調整を適用（二重計上の防止）するクレジット制度が優位に。
- ▶ 炭素市場の活性化に伴い、先住民族や人権への影響に対応することがさらに重要に。
- ▶ 世界全体の排出量が増えないよう、品質の高いクレジットに対する期待。一方で、制度がより厳格となる可能性。
- ▶ クレジットの需要国・供給国は、環境十全性を確保するために制度設計の検討が必要。

# IGES関連ウェブサイトや出版物



**パリ協定第6条 特集**  
Special Feature on  
Article 6 of the Paris Agreement



交渉の状況	関連イベント	関連出版物	研究者の視点	関連映像
-------	--------	-------	--------	------

2016年に発効したパリ協定は、様々なルールが各国合意の下で取り決められ、2020年から本格運用が開始されています。そのような中、交渉が継続され、11月開催予定の国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）での合意を目指しているのが、パリ協定ルールブック最後のピース、第6条です。日本国内でも最近話題になる炭素市場やカーボンオフセットは、この第6条と深く関係があります。

このページでは、パリ協定第6条の基本的な解説と交渉における議論、第6条に関連する用語集や情報、IGESの関連出版物を紹介していきます。

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/paris-agreement-article-6>

気候変動ウェビナー  
合計 視聴者 8,040

- ▶ 今後、2022年1月以降の炭素市場トラックのウェビナー情報を公開予定
- ▶ パリ協定第6条の決定文書の日本語翻訳（IGES訳）を12月上旬に公開予定
- ▶ 図解6条（仮タイトル）（6条を解説したガイドブック）を作成予定（時期未定）



11月公開

COP26 最後のピース パリ協定第6条ルールの決定について～政治レベルの合意点のポイント～

<https://www.iges.or.jp/jp/pub/cop26-glasgow-article6/ja>



11月公開

Elements related to carbon credit credibility  
<https://www.iges.or.jp/jp/pub/elements-carbon-credit-credibility/en>



ご清聴ありがとうございました。  
Thank you very much for your attention.

気候変動とエネルギー領域 副ディレクター  
高橋健太郎